

鼎談「私の視点～主体的・対話的で深い学びの授業デザイン～」

■趣旨説明

教育工学、放送教育研究、メディア・リテラシー論などを専門とする研究者3名が、独自の視点で主体的・対話的で深い学びを実現させる授業デザインのあり方について議論する。D-projectが行ってきた研究の蓄積をどう活かし、今後どのように展開していくか、主体的・対話的で深い学びを実現するメディア表現学習の可能性について考える。



■登壇者略歴

久保田 賢一（関西大学・教授）

高校教師、国際ボランティア、国際協力専門家、米国インディアナ大学視聴覚センター研究員などを経て、現在、関西大学総合情報学部・教授。中央大学理工学部物理学科卒、米国インディアナ大学大学院にてPh.D.（教育システム工学）。専門とする研究領域は、学習環境デザイン、質的研究、国際教育開発など。海外との連携を深め、国際的な協働教育プログラムの実践を行っている。著書に『大学教育をデザインする』（共編著、晃洋書房2012）『高等教育におけるつながり・協働する学習環境デザイン』（編著、晃洋書房2013）など。

宇治橋 祐之（NHK放送文化研究所・主任研究員）

NHKで小学校、中学校、高等学校向けの各教科の学校放送番組を中心に、教育ジャーナル番組や教育ドキュメンタリーなどの教育番組全般を制作。現在NHK for Schoolとしてインターネットで展開しているデジタルコンテンツ等の開発も行う。2013年より現所属で、「教師のメディア利用と意識に関する調査」等を担当。放送大学大学院修士（学術）。放送教育・視聴覚教育研究会等の講師として全国各地を歴訪している。著書に『放送メディア研究12特集 多様化する子どもの学習環境と教育メディア』（編著、丸善プラネット2015）など。

中橋 雄（武蔵大学・教授）

関西大学大学院にて博士号（情報学）を取得後、福山大学勤務を経て、現在、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授。専門とする研究領域は、メディア・リテラシー論、教育実践研究、教材開発研究など。総務省「フューチャースクール推進事業」文部科学省「学びのイノベーション事業」などで実証校の指導助言を行うなど、教育現場と教育の情報化に関する研究を行ってきた。著書に『メディア・リテラシー論』（単著、北樹出版2014）『メディアプロデュースの世界』（共編著、北樹出版2013）など。